

経済的自立に向けて：就業による経済的安定と日本語の壁

10代の将来は？

ウクライナと日本の架け橋、心の復興から

変化する家族関係

第1部登壇者紹介



ベルナツカ・ユリヤさん (写真中央)

キーウ出身 (50代・女性)

息子を頼って来日。本国ではIT会社を経営。来日当初から避難者と企業をつなぎ自転車、パソコンなど生活に必要な物資の収集提供などを行う。避難しているエンジニアが経済格差や休業で本国の仕事を続けるのが難しいことや、日本語が壁となり専門性を活かして就労することが困難であることを受けてIT技術を生かして就業するための研修コースを独自で開設。すでに30名以上が受講し、国内外の企業で職を得たり、自尊心向上などの効果も出ている。避難民の経済的な自立はもとより、IT技術を通して日本社会へ恩返し、貢献も常に考えている。

ウリバチョバ・イリーナさん (写真左)

スームイ出身 (40代・女性)

国立キーウ大学を卒業後、弁護士として活躍。法学博士を取得後はスームイ州立大学にて教員として後進の教育に携わる。ウクライナ弁護士会所属。来日後は、千葉県に住みながら、日本人弁護士と共に、法律面での支援が必要なウクライナ避難者のサポートを親身に行う。

自身も子どもがいることから、多感なティーンエイジャーの居場所づくり、サポートなどにも注力する。

フロアセッション登場予定者

M・Zさん ハリコフ出身 (30代・男性)

“身寄りのない避難民”として夫婦で日本政府の支援で来日。コンビニエンスストア等で働くが、言語及びビジネススキルを身に着け生活基盤の安定化に向けて努力を続け、現在はフルタイムで勤務。男性避難者が直面する孤立感にも向き合いながら、妻の専門性(プラネタリウム解説員)を活かしたキャリア実現も支える。

O・Bさん ザポリージャ出身 (40代・女性)

20年以上麻酔医として博士号を持ち、医療に従事。家族3人で来日。滞在が長期化する可能性を見据え、都が実施するビジネス日本語と就業スキル向上の講座を受講。夫の健康状態が思わしくなく、娘がまだ中学生であり一家を経済的に支えていく覚悟だが、医師、あるいは医療に携わる仕事も諦めていない。

A・Bさん ザポリージャ出身 (10代・女性)

地元の中学校に通学しながら、NGOが運営する日本語学習コースにも参加、さらにウクライナの学校の電子メールで送られてくる課題もこなす。日本のアニメーションをこよなく愛し、地元のママさんバレーボールにも所属。まだ将来のことは考えられないと語る。

R・Tさん キーウ出身 (10代・男性)

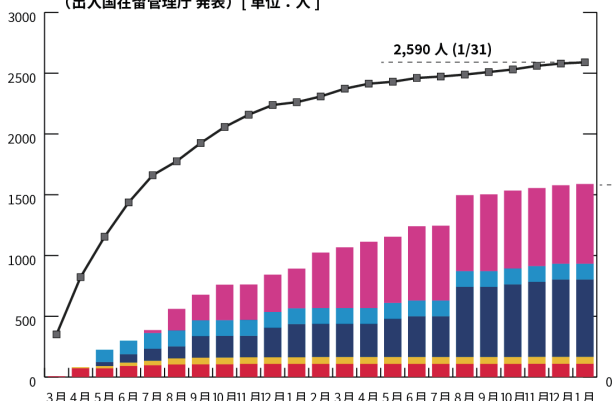
17歳で来日して現在19歳。ウクライナでの高校卒業を目前にリトアニアを経て日本に単身で避難。将来の夢は航空関係のエンジニアになること。現在は日本語学校での学習に注力しているが、日本の高校へ入学して一から勉強し、大学進学を期待している。悩みは、深い話ができる友人が出来にくいことを話す。

YMCAウクライナ避難者支援プロジェクト

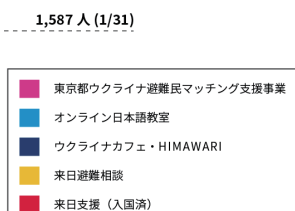
2022年3月当初から、ウクライナから日本への来日避難を、グローバルネットワークを用いて展開。同年4月には在日ウクライナ大使館から依頼を受け国内の避難者支援、7月からは東京都と協定を結び、都内に集中する避難者の生活の見守りを行う(「東京都ウクライナ避難民マッチング支援事業」)。これまで個別訪問・面談を行って来た避難者は約1600名にのぼる。

民間NPOとして、これまでの国内外の人道支援・災害支援のノウハウをベースに、一貫して一人ひとりに寄り添い、人間同士の深く、そして息の長い支援を行う。

日本に避難してきたウクライナ人の入国者数
(出入国在留管理庁 発表) [単位：人]



日本国内でYMCAにつながるウクライナ人
避難者数(累計)とその内訳 [単位：人]



ウクライナ避難者支援
活動紹介ページ



エクサアカウント



<https://twitter.com/YMCAHELPUKRAINE>